

新たな自分発見

～若年性認知症支援者から見た光景～

社会福祉法人池上長寿園
大田区若年性認知症支援相談窓口
管理者 堀端秀和

社会福祉法人池上長寿園

* 設立 1962年（昭和37年）9月

* 高齢分野

* 特別養護老人ホーム、養護・軽費老人ホーム、高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、定期巡回、初任者研修養成事業など約60の事業を展開

* 若年性認知症支援事業

支援相談窓口、専門デイサービス、家族会、本人会、地域団体（有償活動）、ヤングケアラーサポートなど



社会福祉法人

池上長寿園

パートナー団体として8つの企業との“縁”

＊参加・協力した主な方々＊

若年性認知症当事者 23名

その家族 5名

特別養護老人ホーム

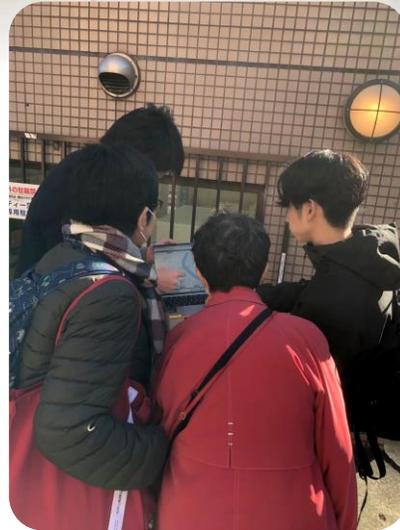
高齢者在宅サービスセンター

認知症対応型高齢者在宅サービスセンター

入居者・利用者・職員



取組みの様子



参加者の声

- ・ いろいろな形で貢献することができることが嬉しいし、楽しい
- ・ 今の活動が誰かのためになるのであれば、やりがいもある
- ・ 認知症になったから、いろいろな経験ができるようになった
- ・ いい商品だなあ 希望が詰まっているようだ
- ・ この商品欲しい 90歳の夢を見たいもの

介護事業所の声

- * あるものに自分たちが合わせるのではなく、自分たちに製品が合わせてくれるという視点で考えたことがなかったと楽しみながら意見を出している様子が伺えた
- * 認知症の方の生活がより安心できるモノづくりをされていることがとても嬉しく感じた
- * できれば認知症の方を直接接している現場の職員の意見を聞いてもらえる機会があると、困りごとや工夫などを知るきっかけになる

支援者が感じたこと

- * 参加者が楽しんでる
- * 自分たちの声が届くことによる“やりがい”
- * 幅広い年代が参加することで、世代ごとの視点や気づきがある
- * 職員も商品に触れたりすることで、現場の最前線で活動している介護や支援者の声も企業側にとっても大きなメリットがある
- * 企業によっては、実際に商品を改良したり、サンプル品を製造してもらえるので、リアルに体感できる
- * いろいろな人との交流が“やっぱり”楽しい

最後に

認知症当事者だけでなく、障害を持って、病気になっても手に取って使える商品が一つでも世にでてきて欲しい（**願い**）

「夢」を創るのではなく、実現できるのが経産省の取組みであり、夢を叶えてもらいたい（**希望**）

そのためには多くの当事者、その家族、そして介護事業所にも参加してもらいたい（**参加する楽しみ**）

ご清聴ありがとうございました

